

第3号

トリセツ

—鳥大説明書—

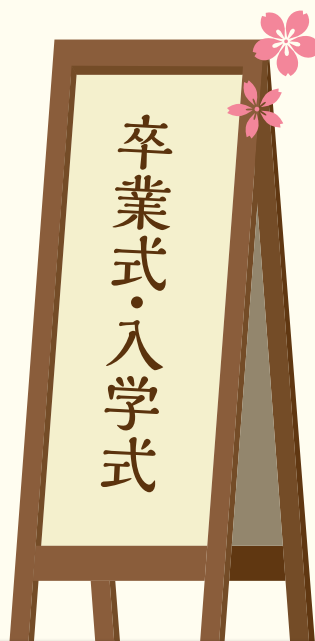
鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。
学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。



3月18日(水)、鳥取県民体育館において平成26年度鳥取地区卒業式が行われました。今年は学部生834名、大学院生283名の計1,117名が課程を卒業、修了されました。会場の外では、サークルや研究室で集まって、下級生が卒業生を祝い、胴上げをしている場面を多く見かけました。今回は、そんな卒業生の中の16人に今の気持ちを聞いてきました！



4月6日(月)、鳥取市のとりぎん文化会館において平成27年度入学式が行われました。今年は学部生1,177名、大学院生351名の計1,528名が鳥取大学に入学しました。朝から雨が降り肌寒い天候の中ではありますが、スーツ姿の新入生たちが会場に集まり、和気あいあいとしている姿が見られました。またこの日は入学式の他にも、サークル紹介や各学部・学科の説明会など、付随した各種のイベントが行われ、大学生活への一歩を踏み出す大事な1日となりました。





地域学部 T・Lさん

- ①学生会館の和室
邦楽友の会に所属していた、くつろげる場所だった。
- ②あっという間だった。
- ③卒業論文に間に合わなくて焦った。
- ④4年間あっという間なので、後悔しないように過ごしてください。



地域学部 K・Sさん

- ①雨滝(日本の滝百選に選ばれた鳥取市の滝)
夏でも涼しく、避暑地として手軽に行ける。水遊びができ、夏におすすめ!
- ②友だちに恵まれ、出会えて嬉しく思っている。今後も付き合いを大事にしたい。
- ③我が強い友達との思い出がたくさん。
- ④4年間すぐなので、1日1日を大切にしてください。



地域学部 M・Hさん

- ①slow slow (カフェ)
店員さんと仲良くなって、顔を覚えてもらってよく行くようになった。
- ②卒業旅行の伊勢旅行など友だちと遊んだことがよかった。
- ③実習が大変だったことが印象に残っている。
- ④大学が一番時間があって遊べる時間なので、海外に行っておいたほうがいいと思います。



農学部 I・Sさん

- ①研究室
先生と仲が良く、話に行ったり、相談に乗ってもらっていたりしていた。
・バイト先のローソン
バイトをしており、店長さんと仲良かった。
- ②先生に助けられたことが多かった。
- ③先生と話したり、友だちと映画を見たりしたことが楽しかった。バイトも印象深い。
- ④友だちは持っておいたほうがいいです。サークルなどで横のつながりを持って、相談できる人を見つけてください。



農学部 T・Kさん

- ①野球場
硬式野球部なので、皆と苦楽を共にした場所。
- ②いい友だちに恵まれてよかった。
- ③全部。
- ④大学生生活は人生の夏休みです。楽しんでください!



地域学研究科(大学院生) N・Yさん

- ①院生室
ご飯を食べたり、友だちと話したり、勉強・休憩と生活していた場所。
- ②色々あって大学院に来たが、結果的に良かった。
- ③女友だちとカフェや飲み会に行ったこと。
- ④とても楽しい学校なので、学校生活を楽しんでください!



地域学部 T・Nさん

- ①校内のイチョウ並木
座ってお昼ご飯を食べたり、空きコマのときに友だちと話したりしていた。
- ②大学は一生の友だちができる場所。
- ③風紋祭のときに模擬店を出したこと、研究室の皆で研修旅行に行ったことが印象深い。
- ④自分がやりたいと思ったら、迷わず挑戦してみてください。



工学部 K・Tさん

- ①大学の第二食堂
毎日ごはんを食べていた。うどんをよく食べていた。
- ②苦しいこともあったが、良い友人に恵まれた。
- ③オーストラリアへの海外旅行。
- ④遊びすぎないでください。



工学部 I・Dさん

- ①ピクニック(湖山のパン屋さん)
バイト先で、仲良くさせてもらった。
- ②③鳥取大学環境意識向上サークルの心(えこころ)の活動で、風紋祭のときのごみ分別が大変だった。
- ④頑張ってください!



地域学研究科(大学院生) E・Iさん

- ①院生室(勉強)
ほぼ毎日入り浸っていて、夜を明かしたこともあった。
とんとん(ゼミコン)
- ②これほど苦しい2年間はないが、充実していた。濃すぎた2年間だった。
- ③地域のフィールドワークは、現場を知るという意味で、研究に明け暮れていた。
- ④大いに学び、大いに遊んでください。鳥取は結構楽しいところです。



工学部 H・Iさん

- ①鳥取駅
今まで行ったことがなく、初めて行ってすごかった。
- ②一人暮らしなど色々なことが初めてだったが、やっと終わったかという感じ。
- ③サイクリング部で47都道府県全部に行った。そこから見ると、鳥取はいいところだと思った。大学生生活は、物事を色々な視点から見ることができた。
- ④鳥取は半年もすれば行くところなくなりますが、その中でもいいところがあるので、飽きずに4年間楽しんでください。



工学部 Y・Tさん

- ①学生室
一番長くいたところ。色んな人と一緒に過ごした。
- ②③2年のときに生物応用工学科で風紋祭の模擬店に出店したことが、皆でわいわい楽しかった。
- ④折りたたみ傘は大事です!



工学部 Y・Sさん

- ①更科(湖山のごはん屋さん)
自分の家から近く、お店のご主人とよく話した。元気がないときに行って、元気つけてもらった。
- ②たくさんの人に出会い、色々な価値観に触れ、充実した大学生活だった。人と関わるのが苦手だったが、バイトをしてそれがなくなった。
- ③鳥取県民は初対面でもガンガン話しかけてきて、びっくりした。
- ④色々つらいことはありますが、今やっていることに楽しみを見つけて頑張ってください。

卒業生にインタビュー

- ①鳥取でお気に入りの場所は? ②大学生活を振り返って、今の気持ちは?
- ③大学生活で印象深かったことは? ④新入生へ一言!

INTERVIEW



地域学部 Y・Aさん

- ①アゴラの前のベンチ
普段座ってご飯を食べたり、話したりしていた。
- ②楽しかった。
- ③教職関係で教えることが楽しかった。友だちと遊んでいるときも楽しかった。
- ④楽しく4年間を過ごしてください。



農学部 A・Iさん

- ①国試と共に戦った学生居室的机
- ②楽しかった。
- ③学会で全国を飛び回った。自分で全国に行けたことがよかった。
- ④友達と仲良くすることが一番です。



農学研究科(大学院生) O・Mさん

- ①鳥取大学農学部附属フィールドサイエンスセンター研究室がここにあり、ずっと研究室にいた。
- ②楽しいことのほうが多く、色んな人に出会えてよかった。
- ③学部の卒業論文のときに、色んな人から褒めてもらったことがいい思い出。それが今にもつながっている。
- ④色々なことがあると思いますが、自分だけでなく、周りの人と一緒に解決し、楽しんでください。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます! とても濃い学生時代を過ごしてこられた方ばかりで、取材でお話を伺うのが楽しかったです。鳥取を離れる方も多いと思いますが、鳥取大学で過ごした日々を忘れず、頑張ってください!
(担当:小谷)



工学部 S.Tさん(写真左)

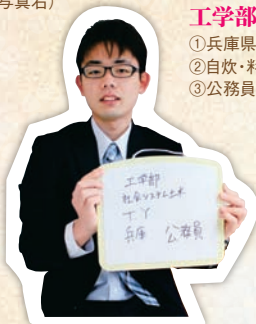
- ①奈良県
- ②勉強
- ③おもちゃ関連の職種

農学部 S.Sさん(写真中央)

- ①長崎県
- ②英語が話せるようになる
- ③きのこの研究者

工学部 O.Iさん(写真右)

- ①京都府
- ②留年せずに卒業する
- ③数学の先生



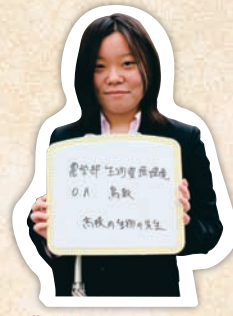
工学部 T.Yさん

- ①兵庫県
- ②自炊・料理
- ③公務員



工学部 T.Mさん(写真右)

- ①兵庫県
- ②サッカー・フットサルのサークルに入る
- ③化学でノーベル賞



農学部 O.Aさん

- ①鳥取県
- ②サークル(合唱)
- ③高校の生物の先生



地域学部 S.Mさん

- ①兵庫県
- ②バイト・勉強・サークルの両立
- ③小学校教師



工学部 S.Hさん

- ①奈良県
- ②サッカー系のサークルに入る
- ③大学院で外に出る



工学部 O.Rさん(写真左)

- ②サークル
- ③人の役に立つ仕事に就きたい

工学部 H.Yさん(写真中央)

- ②部活かサークル
- ③立派な社会人になりたい

地域学部 O.Mさん(写真右)

- ②アメリカに留学する
- ③立派な教師になる



地域学部 Y.Iさん

- ①京都府
- ②勉強・バイト・部活(バレーボール)の両立
- ③小学校教員



地域学部 K.Sさん

- ①広島県
- ②湖山池についての調査
- ③高校教師(理科)



農学部 M.Hさん

- ①大阪府
- ②勉強とクラブ(武道系)の両立
- ③絶滅危種の繁殖の研究



医学部 M.Tさん(写真左)

- ①奈良県
- ②ピアノ/ハートカウンセラーに参加する
- ③元気な看護師になること

医学部 M.Yさん(写真右)

- ①鳥根県
- ②医療関係(献血など)のサークル
- ③地域医療に貢献できる看護師になること



①出身地 ②大学でやりたいこと、目標 ③将来の夢

INTERVIEW

新入生の皆様、このたびはご入学誠にありがとうございます！皆様も鳥取大学の学生として新たなスタートを切りました。新しい生活はいかがですか。皆様が大学生活を思いきり楽しめまことをスタッフ一同心より願っております。この「トリセツ」が少しでも皆様を楽しませる材料となるよう、今後も精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

さて、今回は新入生の皆様にさまざまなお話を伺うことができました。やはり西日本出身の方が多かったです。前回の「トリセツ」で取り上げましたように、今年も特に兵庫県出身の方が多くと身を持って体験できたように思います(笑)。皆様ようこそ、鳥取へ！

全力で学んで全力で遊んで、いろいろな意味での「大学生活の楽しみ」を経験してください！

改めましてご入学おめでとうございます。皆様の大学生活に幸あれ！(担当:山谷)

鳥大の学生や先生方、研究室の取り組みを紹介していくコーナーです。今回は、農学部*獣医学科の学生さんの取り組みを紹介します。（*平成25年度入学以降は共同獣医学科）

みなさんは獣医学科の学生が、日々どのような活動を行っているかご存知でしょうか。私たち学生広報スタッフの中で獣医学科は、実習と勉強の日々で大変そうというイメージが強かったのですが、学生の方々にインタビューを行い、普段の様子や独自の取り組みを伺ってみました。

■ 4年・梶谷真一郎さんへのインタビュー

Q. 現在の研究内容と、鳥大の獣医学科を選んだ理由は？

A. 私は獣医衛生学の研究室に所属していて、鳥インフルエンザに関する研究などを行う予定です。小さい頃から鳥を飼っていて、そこから鳥インフルエンザに興味をもち研究したいと思うようになりました。鳥大には、「鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター」もあり、鳥インフルエンザについての研究に力を入れていると思い、鳥大の獣医学科を選びました。

Q. 獣医学科は勉強とサークルの両立が難しいイメージですが、実際は？

A. 私はギターアンサンブル部に所属していました。勉強との両立は大変でしたが、部活のない日にまとめてひたすら勉強していたので、うまく両立できていたと思います。

Q. 獣医学科ならではの特徴的な授業は？

A. 生理学実習では動物の腸管を使って、腸の収縮の様子を観察します。解剖の実習など、長時間集中して行う授業はなかなか大変でしたね。他には、岐阜大学との共同で行う遠隔中継授業があり、岐阜大の先生による講義も受けられます。鳥大にはない専攻の先生の授業を受けられたので、とても有意義だったと思います。

Q. 今後の目標は？

A. 大学入学当初からの目標だった、鳥インフルエンザについて学べる研究室に所属できたので、ここからバリバリ研究に励んでいきたいと思っています。鳥に特化した獣医があまりいないので、将来は大学で学んだ鳥インフルエンザの知識も活かせる鳥専門医になりたいです。



4年・梶谷真一郎さん
実家でアヒルを飼っていたそうです。

■ 5年・別所麻由子さんへのインタビュー

Q. 獣医学科で専攻されている研究について

A. 獣医学科では4年次から研究室配属があり、私は臨床検査学研究室に所属しています。病気の診断・治療において臨床検査から得られる情報はとても重要な位置を占めています。これに関連した研究として、ミルク由来のタンパク質であるラクトフェリンの動物のストレスおよび問題行動に対する影響について研究しています。

Q. 鳥大の獣医学科を選んだ理由は？

A. 私の家には幼い頃からイヌやウサギがいて、動物とふれ合うことの多い環境で育ちました。きっと、獣医学を専攻される多くの方がそうだと思いますが、純粋に動物が好きで将来も動物に携われる職に就きたいと考えたからです。鳥大を選んだ理由の一つは、出身が島根県で鳥取県が近かったことにあります。帰省もしやすいですね。

Q. 一日のスケジュールは？

A. 毎日8時半頃から朝会があり、前日の症例のカルテを読み、その症例の来院時の状態や検査結果、治療方針について検討します。また、その日に来る予定の症例についても頭に入れておきます。その後は授業か、または授業がなく診療がある場合は動物医療センターで問診や採血、保定（診察時に動かないよう固定すること）、検査などの診療補佐を行います。先生方の診療を間近で見ることができるので、授業で学んだ症例を実際の現場でも学べます。患者さんによって健康状態も異なり、処置の仕方も変わってくるので、生きた勉強ができ、とても面白いです。自分の研究は診療後や休日など、プロトコールに合わせ、時間を見つけてやっています。診療を見られ、実験もできるので、この研究室に入って良かったと思っています。

Q. 獣医学科ならではの取り組みについて

A. 私は日本野生動物医学学生会鳥取支部、通称「バードゲッターズ（以下、バード）」に所属しています。バードでは、鳥取県立博物館のバックヤードツアーや博物館に收容されている鳥をお借りし、解剖や羽標本作製などをさせていただいています。また、「リスの森プロジェクト」と称し、西日本で個体数の少ないニホンリスの調査や、リスの棲みややすい森づくりを地域の方と交流しながら行っています。大学の風紋祭では、骨標本やポスターの展示、プレゼンなどを行いました。その他にもバードでは、自分の興味のあることを自由に行っており、シカの調査や鳥見をすることもあり。私は参加していませんが、他大学の獣医学科の学生同士で交流するJAVSという団体もありますよ！

Q. 今後の目標と将来の夢について

A. 昨年は授業数が多く、研究室にも入ったばかりで仕事を覚えるのに必死でしたが、今年はお出会う症例一つ一つにしっかりと向き合い、自分で考えながら動けるようになりたいと思っています。また、バードに関してもフットワークを軽く、できるだけ様々な活動に参加したいです。また、私は鳥取大学の明徳大学英语研修プログラムに参加させていただいたり、海外へスタディツアーに行ったりしたこと、コミュニケーションツールとしての英語の重要性を実際に痛感したので、現在は英語の勉強も頑張っています。あれもこれもと、少し欲張りかもしれませんが、できることは努力していきたいです。将来の夢は野生動物の保全活動や臨床をすることです。現在取り組んでいる研究や学んでいることを活かせるようにしたいです。



5年・別所麻由子さん
今やりたいことは、野生動物を見に行きたい！

梶谷さんからは獣医学科における基礎的な授業のお話、別所さんからは研究室や実習での様子などより詳しいお話を聞くことができました。私たちスタッフのイメージ通り、実験や診療でお忙しそうですが、その合間にサークルなど課外活動を行うことで、お二人とも充実した大学生活を過ごされているように感じました。バードの取り組みなどは、他学部からもアプローチできると思うので、みなさんも様々な活動に取り組んでみてはいかがでしょうか。（担当・富森）